



学校教育目標：めざします！ いきいきと楽しく 笑顔あふれる学舎（まなびや）を！

「褒める」より「認める」 ～ 講演「ひとりで頑張りすぎない子育て」より ～
校長 羽田 敏隆

先日、民生委員児童委員協議会の後援会が青葉区役所で開催されました。講師は棒田明子さん（NPO 法人孫育て・ニッポン理事長）。その会に出席された保護者の方から少しですが講演会の内容を伺う中で、学校と共通する内容・共感する言葉がありました。

それは演題の「ひとりで頑張りすぎない子育て」の中の「褒める」より「認める」という言葉。講演に出たわけでも、出席された保護者の方からじっくり内容を伺ったわけでもないのに、棒田さんの主旨とは違うところがあるかもしれませんが、私が考えたことを記したいと思います。

「褒める」ことは子どもの成長につながるといわれます。できていない点、課題を指摘されて、しかられてばかりいるより、良かったことを「評価」されて褒められることは子どもに限らず大人でもうれしいもの。子どものいい面を伸ばす働きかけを大切にしたいと思います。

ただ、「褒めればよい」というわけではありません。「褒める」ことは実はとても難しいものです。（結果を）「評価」して褒めることが多くなりがちの中、「結果が出ないと褒められない…」となれば、嘘や言い訳をする子に育ちかねません。

また、教員になってからの自分の経験ですが、ある校長先生から「〇〇を頑張っているね」と評価・お褒めの言葉をいただいたのですが、〇〇を頑張っていたというわけではなく、大切にしていたことが別のことだった私は、褒められてうれしくなかったばかりでなく、「校長先生は自分のことをちゃんと見てくれているのかな…」とがっかりしたものでした。

「テストで 100 点」だった
→ 「100 点」という「結果」を褒める

「100 点取れなかった」ときは…
→ 「100 点」とれなかった自分は
ダメな子 … 自己肯定感↓
または結果を隠す 嘘をつく

さらには

- ・結果が出なかった言い訳を探す（本人だけでなく、保護者も）
- ・次の失敗を恐れてチャレンジしなくなる

「テストで 0 点」だった
→ 「0 点」という「結果」を褒められる？

「褒める」を「認める」に変換！ 褒めることはなかなか

難しいわけですが、「褒める」を「認める」に変換してみましょう。例えば、「0 点」というテストを見

せてきたときに、結果を「褒め」られなくても気持ちや努力を「認める」ことはできます。子どもの気持ちや努力がすぐにわからないときは「どう思ったの」「どんな工夫をしたの」など、子どもの気持ちを引き出す声掛けをするとよいと思います。努力や工夫、チャレンジを認められると、自主的なやる気も芽生えてくるものです。これは子どもだけではないですね。保護者も教職員も地域も、子どもも大人も、「みんな

みんなを」大切に認め合って、成長していきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

今年も猛暑・酷暑が予想されます。皆さま、健康第一で、素敵な夏休みをお過ごしください。

「0 点のテスト」を「認める」声掛けは？
→
「よくこのテストを見せてくれたね」
「テストから逃げずによく受けたね」
「なんとか答を書こうとしているね」
など、気持ちや努力を「認める」ことはできるのではないのでしょうか。

○1学年 PAA（6月19日） @南足柄

『自然の中で団結し、新しい力を身に付けよう!』のスローガンのもと、中学校生活初めての校外学習に臨みました。

現地では南足柄の自然の中で、ファシリテーター（現地スタッフ）の方から時間内にクリアしなければならない課題を与えられました。その課題を達成するために意見交換を繰り返し、さまざまな方法を試し続けました。なかなか気持ちを一つにすることができず、多くの失敗にもぶつかりましたが、「ドンマイ!」「大丈夫だよ!」「一緒に頑張ろう!」といった言葉でお互いを励まし、アドバイスをし合いながら粘り強く挑戦していました。団結して気持ちが一つになり、課題をクリアしたときはどのグループも達成感に包まれました。そのすべての時間は、まさに子どもたちが成長する過程そのものでした。

校外学習後の青学年は互いを思いやる発言が増え、交友の輪が広がったように感じます。新しい力を得た青学年は『やさしさと尊重』であふれる学年を目指して、これからも歩み続けます。

1年PAA実行委員長

初めての1年生で行く行事ということで、『自然の中で団結し、新しい力を身につけよう』というPAAのスローガンを達成するために、協力しようと、皆はりきっていました。

開会式は、これからどんなことをするのかと、いつもよりも緊張して始まりました。それぞれのクラスにファシリテーターの方がついて活動がスタートしました。中間の共通点を探し、グループを作る活動では、みんなが積極的に声をあげていて、となりのクラスも同じように盛り上がっていました。出されるミッションを、みんなで知恵を出し合い、達成していきました。お昼ごはんでは、午前中の頑張りを振り返りつつ、みんなが楽しく食べていて、とても良かったと思います。午後はさらに反省点を生かしながら活動し、団結力や絆が深まっていきました。

そして、あっという間に帰りのバス。みんなゆっくりしていて、全力を出し切った証拠だと思いました。この経験で得た「新しい力」を生かして、一人ひとりの意見や個性を尊重して、お互いに理解しあっている青学年になれたらいいと思いました。



みんなで協力をして並び方を変える方法を考えました。



渡った先の友達の協力ももらってロープで向かい側に渡りました。



先導役の2人がアドバイスをし足と気持ちをそろえました。



1枚の大きな紙にそれぞれ自分の手を描き、感想等を書きました。

○生徒会活動

6月28日（金）の6校時に体育館で生徒総会を行いました。各委員会で議案書を作成したあと、各クラスで学級討議を行い、学級討議で出た質問や意見の集約・回答の準備をして生徒総会を迎えました。みたけ台中学校の生徒会本部はいろいろな取り組みにチャレンジしています。ここで生徒会会長に今までの取り組みを振り返ってもらいました。

生徒会会長

生徒会本部では、昨年度以上に新しい活動を活発に行ってきました。

世界的課題であるSDGs貢献活動では、学校全体が一つの目標へ向かい、身近なところからリサイクルに取り組みました。そのことを6月23日にたまプラーザで行った「あおば GREEN DAYS」にて発表をしてきました。

また、生徒会本部と小学校の代表児童が参加する「横浜こども会議」も6月24日にみたけ台中学校の図書館で行いました。こども会議ではいじめというもののが日常生活からうまれてしまうということをみんなで再認識し、対策などを考えました。

6月28日の生徒総会では、学校を引っ張っていく存在である各委員会の委員長さんの話を聞き、生徒一人ひとりが生徒会の一員であるという自覚が持てたと思います。

今取り組んでいる活動は次の代へと受け継がれていく大切なものです。これからも生徒会本部の活動を新聞等を通して知ってもらい、理解を深めていってほしいです。



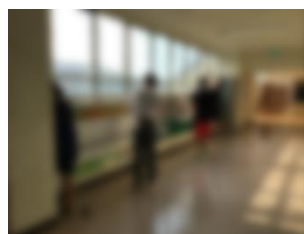
“あおば GREEN DAYS”は区役所主催の行事で、当日は多くの方に足を運んでもらいました。



“横浜こども会議”いじめを未然に防止するために、気にすること、できることを話し合いました。



全校が体育館で集まった“生徒総会”。各委員会から報告や提案がありました。



“校内清掃活動”も6月に引き続き第2回を行いました。今回は窓清掃を中心に行いました。

○特別授業（1年生：食育教室 2年生：浴衣にチャレンジ 3年生：租税教室）

7月1日からの週で、各学年ごとに特別授業がありました。1年生は5日にF・マリノススポーツクラブより講師の方に来ていただき「食育教室」を、2年生は1・2日の2日間でみたけ台中学校のすけっとくらぶとボランティアさんに来ていただき「浴衣にチャレンジ」を、3年生は税理士の方に来ていただき「租税教室」を行いました。生徒たちは普段とは違った授業をうけ、よい経験をすることができました。



1年生の「食育教室」では食事の大切さや理想的なとり方を学びました。



2年生の「浴衣にチャレンジ」では、すけっとくらぶの協力のもと着付けをしました。



「浴衣にチャレンジ」で着付けを教えてもらい、全員、きれいに着ることができました。



3年生の「租税教室」では税の使い道や必要性において講義を受けました。